

令和7年3月14日
小樽開発建設部

後志地域における建設業の担い手確保・育成の官民連携を進めます

建設業は、暮らしや産業を支える社会資本の整備や維持管理を行うとともに、激甚化・頻発化する災害から地域を守るためになくてはならない存在ですが、その担い手不足が大きな課題となっています。小樽建設協会、小樽開発建設部及び小樽建設管理部は、官民共創チームを結成して、後志地域の存続と発展を支える建設業の担い手確保・育成に取り組みます。

活動の第1弾として、以下の取組を始めます。

【採用広報への協力】

- ・各社の採用広報（業務紹介や施工現場紹介など）に、小樽開発建設部と小樽建設管理部が協力します。

【インターンシップの連携】

- ・学生の関心・希望に応じて他企業や行政機関も同時に体験できるように連携・調整するなど、官民の垣根を越えて連携します。

【後志地域のインフラを学ぶ素材の共同作成】

- ・後志地域のインフラの歴史や技術、建設業が果たしてきた役割などを紹介する教材を、官民の垣根を越えて共同で作成します。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

技術管理課長

久保田 英樹（電話 0134-23-8305）

広報官

駒井 象次郎（電話 0134-23-9910）



（小樽開発建設部ホームページ） <https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>

- 学生に「この会社で働きたい」と思ってもらえるようなPR手法を提案したり、そのために必要な素材を提供することにより、民間建設会社の採用広報の充実に向けて協力します。
- 例えば、行政機関が保有するデータや写真等を提供することにより、民間建設会社ホームページの採用情報ページや施工実績ページを以下のように改善するお手伝いをします。

【現行イメージ】

<施工実績ページ>

※採用情報ページとは別のページ

●●道建設工事

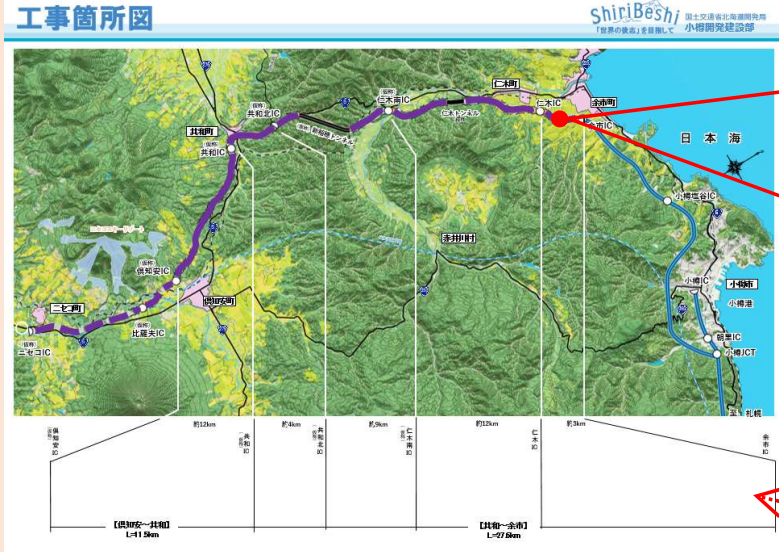
現場写真1枚と最小限の情報のみ

- ▶ 事業の全体像が伝わらない
- ▶ 施工のプロセスが伝わらない
- ▶ 働きやすさが伝わらない
- ▶ やりがいが伝わらない
- …建設業の魅力が伝わらない!

発注者 小樽開発建設部
施工場所 ●●町

【改善イメージ】

<施工実績ページ> ※採用情報ページから明示的にリンク



●●道建設工事

仁木IC付近(倶知安向き)

【現場の紹介】

・この工事はICT機械を使用して、盛土を作る工事です。余市からニセコまでの高規格道路(自動車専用道路)を建設中で、この工事は令和6年度に開通予定の余市～仁木間で道路本線と出入り口部分を完成させる工事です。

発注者 小樽開発建設部
施工場所 ●●町

Aさん

工事現場で施工管理や機械の手配、作業員の安全管理など総括を担当しています。

▶ 先輩職員の声を掲載する

現場は3次元データで管理しています。他の現場で発生した土をこの工事で使おうとしましたが盛土材に適さなかったため、土を改良して施工方法を変更することを発注者へ提案し、目的の道路を作りました。



Bさん

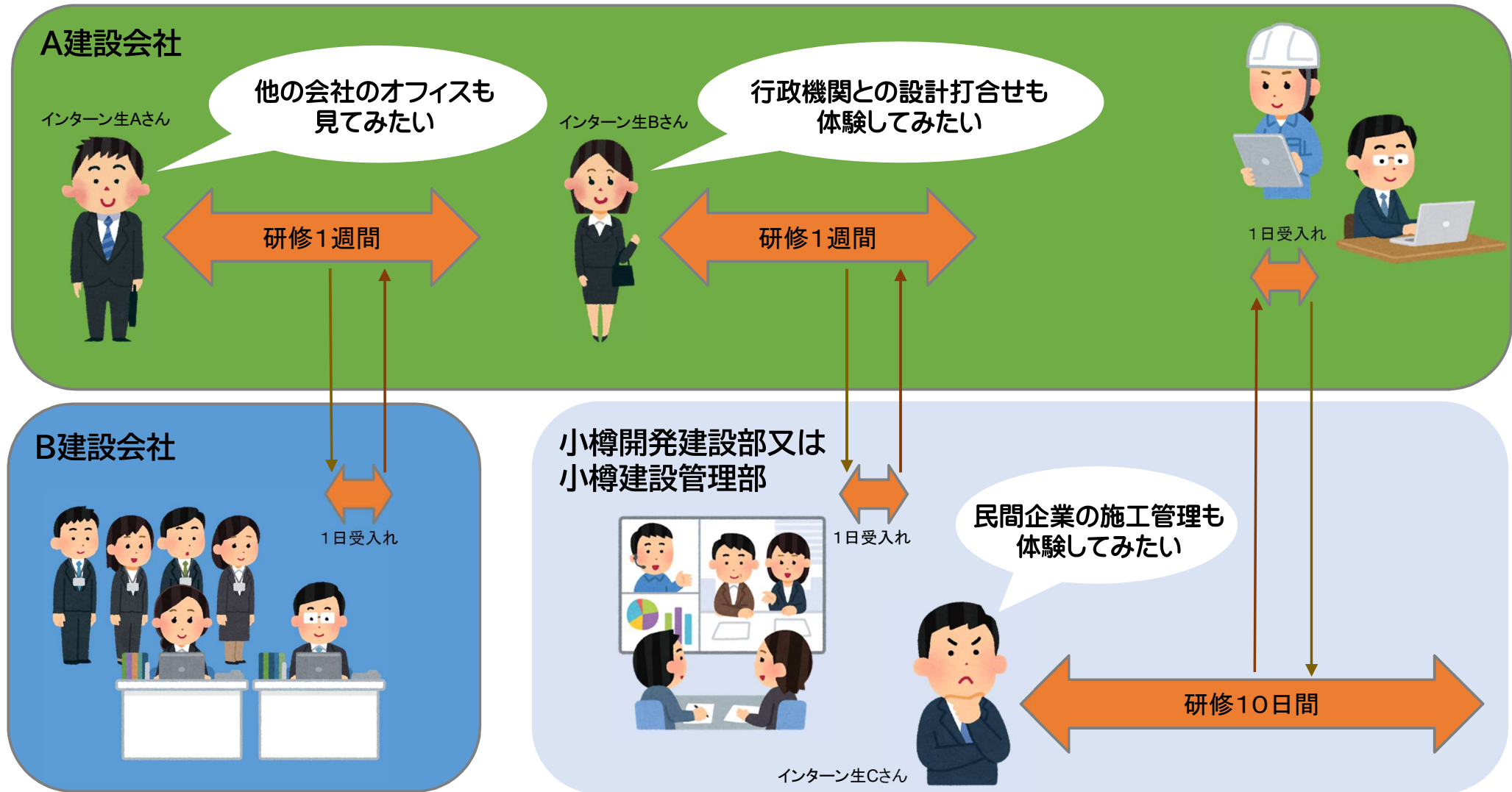
▶ 単純な現場写真以外の写真やデータ、施工方法に関する説明を充実させる

小樽開建から提供



- インターンシップの受入れに際し、本人の希望に応じて民間企業間、又は民間企業と行政機関との間で「相互乗り入れ」を行うことにより、民間と行政の仕事の内容やその関係性を理解してもらいます。
- 例えば、インターン生を以下のように一時的に受け入れることにより仕事の内容を広く体験してもらうとともに、学生に就職先の選択肢を増やすことを目指します。

■イメージ図



- 小樽建設協会に対して後志地域のインフラを学ぶ事業概要資料や写真などを提供することにより、「民間建設会社が生活基盤を支えていることと、その大切さ」をPRするお手伝いをします。
- また、これらを素材に小樽建設協会、小樽建設管理部及び小樽開発建設部が共同作成したパネルを用いて後志管内の公共施設やイベントでパネル展を開催するなどして、建設業の魅力を発信します。

パネルイメージ

一般国道5号（小樽市張碓）



昭和9年 張碓トンネル
昭和6年着工・同8年竣工 一般国道5号

平成13年竣工 一般国道5号張碓4車線化

工事写真



旧道管理道路造成

駐車帯既設舗装版切削

中央分離帯緑地帯掘削



清風橋下部法面補修

法面フリーフレーム仕上げ

大型警戒標識設置

概要 札幌～小樽間は、昭和30年までに2車線の舗装道路が整備され、平成13年に4車線化が完了

- 効果**
- ①4車線化により、最大で11kmあった渋滞が解消
 - ②札幌～小樽間の路線バス所要時間が約5分短縮し、利用者の利便性が向上
 - ③小樽・札幌の近隣商業施設への移動が容易となり、住民の外出機会が増加

小樽港（小樽市）



大正時代 市街從小樽港を望む

平成時代 航空写真

工事写真



被覆ブロック据付状況

根固ブロック据付状況

基礎砕石投入状況



古平港用築造ケーソン進水状況

仮設工 支保鋼材設置状況

取壊し工 上部ブロック切断取り外し状況

概要 小樽港は天然の良港として、北海道開発とともに発展してきた港で、明治5年色内村に最初のふ頭が築かれ、同22年に特別輸出港、さらに同32年には外国貿易港に指定。以後、食料を初めとする様々な商品の輸出入の拠点、国内フェリー航路となっている。

効果 北海道の観光や産業経済の発展に大きな役割を果たしつつ、平成11年8月に開港100年を迎えた小樽港は、日本海側の海上輸送の拠点として、道央地域のモノや人の流れの中心として、また、近年は大型クルーズ客船の拠点として更なる発展が期待されている。

パネル展イメージ

